

2004年8月23日

沖縄総合事務局
局長 様
開発建設部長様
港湾環境技術指導官様
港湾計画課長様
那覇港湾空港工事事務所長様

泡瀬干潟を守る連絡会
共同代表 内間秀太郎 小橋川共男 漆谷克秀



埋立工事区域内で発見された複数の貝類貴重種の保全、及び工事の中断（中止）の要請

別紙「記者会見資料」にある通り、工事区域内で複数の貝類5種が確認されました。

発表された5種、巻貝（オキナワハナムシロ、カゲロウヨフバイ、コウシヒメムシロ）、二枚貝（ヤマホトトギス、コバコガイ）は何れも重要種・貴重種であり保全が重要です。

これらの種は「記者会見資料」に記載されているように、工事が施工されれば、その影響は免れないものです。そして、発見された海域は、多くの貴重な動植物が適応している特殊な環境であり、保全の必要性が強調されています。

私たちが以前から指摘していたように、泡瀬干潟（海域）が極めて貴重な場所であり、これらの「種の保全」と同時に「場の保全」が重要であることが、あらためて証明されたものです。同時に事業者の行なった環境アセスが非常に杜撰であったことを改めて証明するものです。

次のことを要請致します。

1. 新たに確認された5種を「調査し保全する」と同時に、始まっている「仮設橋梁工事」、9月から予定している「海上工事」を中断（中止）すること。
2. 泡瀬公有水面埋立事業そのものを抜本的に見直すこと。

泡瀬の第1期工事計画区域内の深場で複数の貝類貴重種を発見

泡瀬干潟生物多様性研究会・日本自然保護協会（泡瀬干潟自然環境調査委員会）・泡瀬干潟を守る連絡会

2004年8月23日

泡瀬干潟生物多様性研究会・日本自然保護協会（泡瀬干潟自然環境調査委員会）・泡瀬干潟を守る連絡会は、2004年の調査において、泡瀬の第1期工事計画区域内の深場（学術用語では潮下帯＝干出しない海域）から以下のような貝類の貴重種を発見したので報告し、埋立事業に関する意見を述べる。

巻貝類

オキナワハナムシロ *Nassarius optimus* (Sowerby, 1903) (オリイレヨフバイ科)

第1期工事計画区域内の深場（水深3～6m）で生貝2個体が確認された。本種は、久保・黒住（1994）によって「名護」から記録されているが、琉球列島の具体的な生息地は他に知られておらず、泡瀬は現在（報告者らの知る限り）、本種の国内2番目の生息分布確認地である。本種は内湾潮下帯の砂泥底に生息し、琉球列島では生息地が極限されている種と考えられる。沖縄島は本種の分布の北限である可能性がある。WWF ジャパンのレッドデータブック（和田ほか, 1996）では「危険」と評価されている。

カゲロウヨフバイ *Nassarius* sp. (オリイレヨフバイ科)

第1期工事計画区域内の深場（水深3～6m）で生貝3個体が確認された。本種は、奥谷（2000）によれば、学名未確定種（*Zeuxis* sp.）で、奄美・沖縄諸島の内湾・水深2～30mに分布するとされる。久保・黒住（1994）が「名護」から、沖縄県立博物館（1992）が「名護市瀬嵩」から、タテヤマヨフバイ *Nassarius computus* として記録した貝と同種であると考えられる。タテヤマヨフバイは本州の水深・数10m以深に生息する種であり、カゲロウヨフバイとは別種であると考えられる。琉球列島での生息地は内湾域において局所的にしか確認されていない。

コウシヒメムシロ *Nassarius (Hima) taggartorum* Kuroda, 1960 (オリイレヨフバイ科)

第1期工事計画区域内の浅場から深場にかけて（水深1.5～6m）、新鮮な殻1個体とやや古い殻複数が確認された。本種は「沖縄群島産貝類目録（黒田, 1960）」で「与那原湾馬天」（注：佐敷町馬天）を模式産地して新種記載された。黒田（1960）の原記載の記録は浚渫砂泥から得られた殻であり、本種はこれまで生息が確認されたことがない。泡瀬において

新鮮な殻が得られたことから生息している可能性があるが、詳細な調査が必要である。本種はナミヒメムシロ *Nassarius (Hima) pauperus* (Gould, 1850) と同種とされることもあるが (Cernohorsky, 1984; Higo *et al.*, 1999), 殻の格子状彫刻が著しく、肩角が張るなどの特徴がある。両種の種間関係については詳細な検討が必要であるが、報告者らは別種であると考えている。琉球列島では中城湾からしか記録されていない。本種の図が公開されるのは、原記載以来 44 年ぶりとなる。

二枚貝類

ヤマホトトギス *Musculista japonica* (Dunker, 1857) (イガイ科)

第 1 期工事計画区域内の深場 (水深 3~5m) で生貝 1 個体・殻 3 個体が確認された。ムールガイの名で知られるイガイ類の仲間。本種は、房総半島以南~東南アジアに分布するが (奥谷, 2000), 日本では本州~九州でしか確認されておらず、これまで琉球列島からは記録がなかった (黒田, 1960; 久保・黒住, 1995; Higo *et al.*, 1999; 名和, 2001 等)。また、泡瀬の個体群の殻には斑紋が少なく、本州の個体群とは模様が異なる。愛知県レッドデータブック (愛知県環境部自然環境課, 2002) では絶滅危惧 IA 類 (CR), WWF ジャパンのレッドデータブック (和田ほか, 1996) では「危険」と評価されている。

コバコガイ *Montrouzieria clathrata* Souverbie, 1863 (アサジガイ科)

第 1 期工事計画区域内の深場 (水深 3~5m) でやや新鮮な片殻が複数得られ、生息しているものと考えられる。1cm 程度の小形の二枚貝類。本種は、沖縄産として過去に記録されたことがあるが (波部, 1977), それまでには記録のなかった種 (黒田, 1960) である。また、その詳細な分布域や生息場所は全く不明であった (Higo *et al.*, 1999 等) が、今回の発見によってその生息環境が解明されつつある。

まとめ

以上のように、泡瀬の第 1 期工事計画区域内の深場から、生物学的 (分類学的・生物地理学的) に貴重と考えられる複数の種が確認された。これらの種は、本年度の海上工事計画区域付近に分布しており、工事が施行されれば、その影響は免れないものと考えられる。したがって、本年度の工事計画の見直しを求めたい。

今回調査した深場は、砂泥~泥の内湾的な環境であり、そうした環境に特徴的な種が出現していると考えられる。このような内湾的な生物生息環境自体が琉球列島には稀である。この深場には、特殊で貴重な生態系・生物群集が成立していると指摘される。これは泡瀬の環境と生物多様性の重要な側面である。

このように泡瀬は干潟域だけでなく、深場も貴重な環境であることが明らかになりつつある。したがって、干潟域のみに主眼を置いたこれまでの環境保全の論議・施策は再検討さ

れなければならないと指摘される。例えば「消失するのは干潟の二割です」というような事業者の主張は、泡瀬の環境の全体性を正しく評価しているとは言えない。

今回確認された諸種は 1cm～数 cm 程度であり、内閣府沖縄総合事務局の「希少甲殻類・新種貝類等確認調査（平成 15 年 9 月）」では、このサイズの貝類も調査されていたにも係わらず、発見されていない。すなわち、沖縄総合事務局の調査は不十分であり、泡瀬の生物多様性を正確に把握できていないと指摘される。

多くの貴重種が、市民調査の指摘により泡瀬から新たに確認されている。このことは、環境影響評価書そのものが、非常に杜撰なものであったことを証明している。

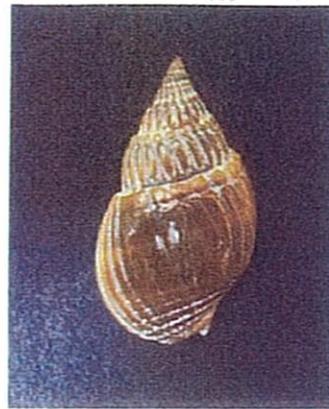
泡瀬の環境と生物多様性の素晴らしさは、既に多くの研究者や人々が認めるところであり、世界的な「島人ぬ宝」と呼んでも全く過言ではない。我々は沖縄県と沖縄市の発展において、この泡瀬の自然の素晴らしさを有効に活用できないであろうか。今ある「島人ぬ宝」に我々が気付かないのであれば、沖縄の未来はどうなるのだろうか？

泡瀬の自然の豊かさを、人間の未来の豊かさに重ねるような政策を期待したい。

泡瀬の第1期工事計画区域内の深場で発見された貝類



オキナワハナムシロ
殻高 25mm



オキナワハナムシロ



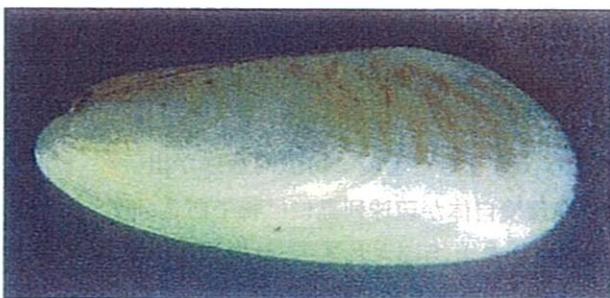
コウシヒメムシロ
殻高 9mm



カゲロウヨフバイ
殻高 13mm



カゲロウヨフバイ
殻高 16mm



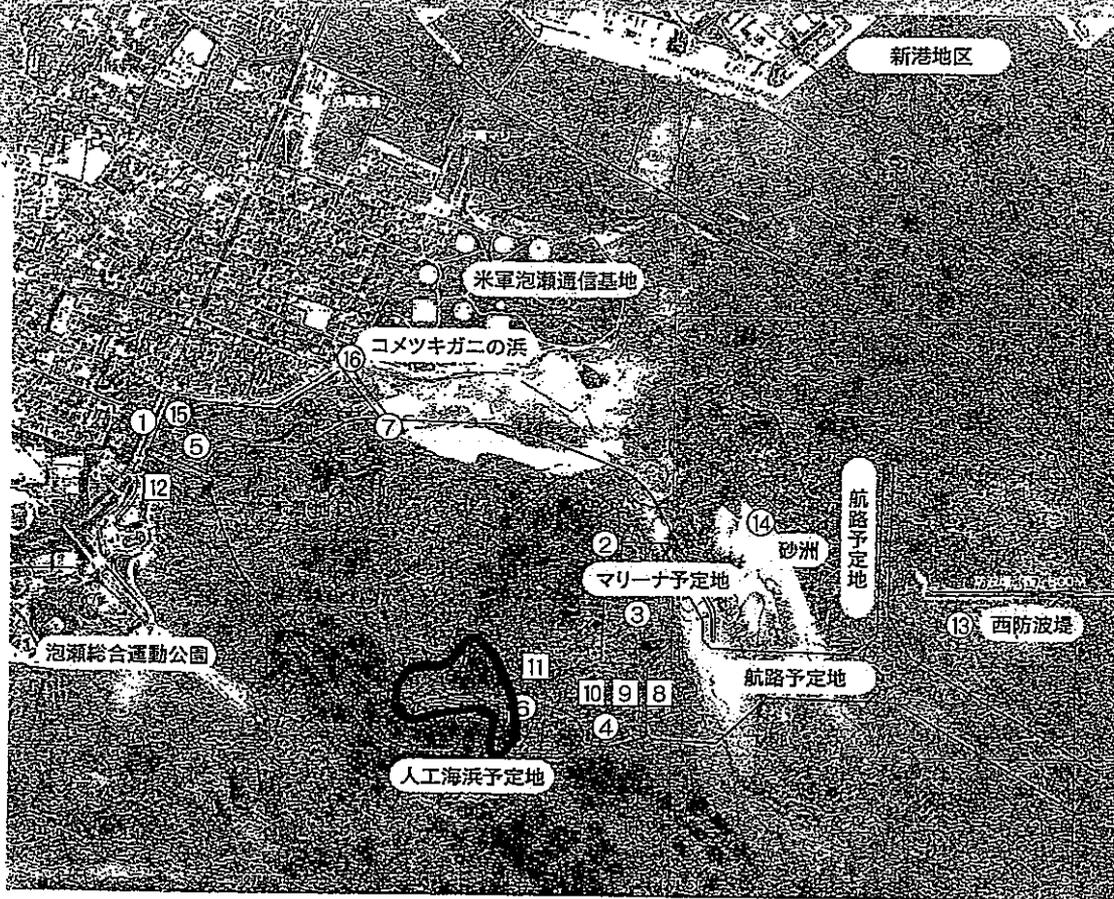
ヤマホトトギス
殻長 19.8mm



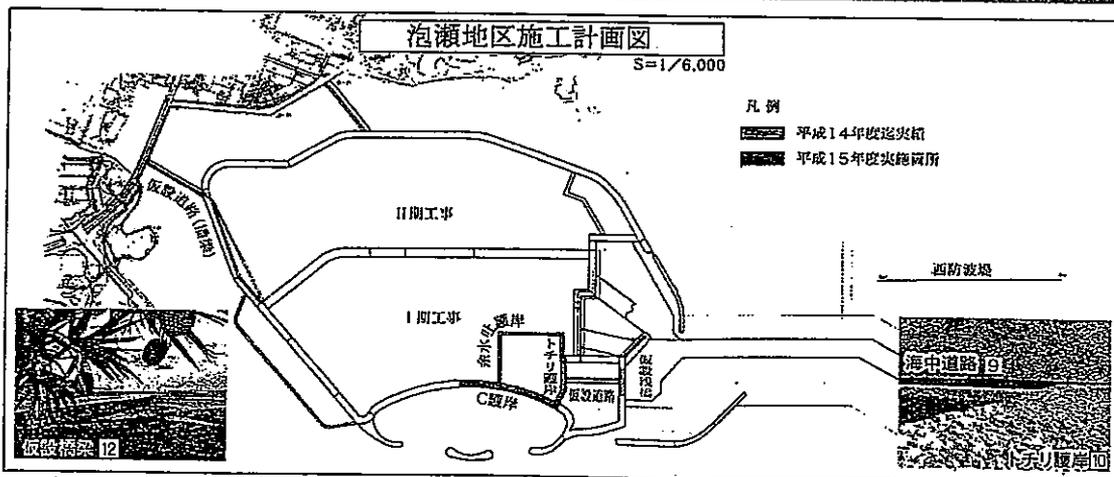
コバコガイ
殻長 10.0mm

02年10月から海上工事は始まりました。下の写真は、埋立予定地の全図(長谷川均国士館大学教授提供)です。赤い線で囲まれたところが埋め立て予定地です。

- 1比呂根湿地(残り鳥休息・探餌地) 2ニライカナイゴウナ生息地 3ヌメ(シヨウケ)生息地 4オボロツギ生息地
 5オキナワホリガニ生息地 6ホソシロシロ(シロ)生息地 7フジビロシロ生息地 8仮設橋 9海中道路 10人工海浜 11余水吐 12仮設橋 13西防波堤 14砂洲 15カサガニ生息地 16コメツギガニの浜



黒い線の調査した深場



03年8月から、赤の部分が工事予定でしたが、ホソウミヒルモやニライカナイゴウナ等の「保全」のため、現在工事が「中断」しています。そのまま「中止」に追い込むために、皆様のご協力をお願いいたします。

～貴重な動植物が生息する、泡瀬干潟と海域を保全させよう～

発行/泡瀬干潟を守る連絡会(共同代表 内間秀太郎 小橋川共男 濱谷克秀) 発行日/2003年12月19日
 (2002年12月19日は埋立工事護岸石材が海中投入された日)

住所/〒904-0021 沖縄県神楽市朝風1-5-4 電話/事務局携帯 090-5476-6628 FAX/098-939-2523(南川) or 098-939-2447(小橋川)
 連絡会ホームページ <http://save-awasehigata.hp.infoseek.co.jp/index.htm> 連絡会メールアドレス save_awasehigata@yahoo.co.jp

このリーフレットは賛助者のカンパでつくられました。 海草移植の写真は「財団法人・自然保護助成基金」の助成でつくられました。 第二次のリーフレット賛助者募集中です。

参考：
 事業者の見解や対応状況は、「2004.10.15 記者発表資料 中城湾港（泡瀬地区）公有水面事業における海上工事の実施について」を参照して下さい。